



第1回 名寄川地区かわまちづくりワーキンググループ議事録

開催概要

日 時：平成 30（2018）年 2 月 1 日（木） 午前 10:00-12:00

会 場：ガーデニング・フォレスト「フレペ」（北海道 下川町）

出席者：畑中委員、藤原委員、メドウズ委員、竹山委員、三浦委員、高松委員、南委員、田中委員、山地委員、成田委員（以上 10 名）

内 容：意見交換会（ワークショップ方式）

議 題：名寄川地区かわまちづくり計画について

1 開 会（開会挨拶：旭川開建 治水課長）

国土交通省では、市町村、地元住民と河川管理者が連携し「河川空間」と「まち空間」をつないで、景観、歴史、文化などの地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かした地域活性化を図る取り組みに対してハード面ソフト面からの様々な支援するため、平成 21 年に「かわまちづくり」支援制度を創設しました。

名寄川地区かわまちづくり計画は、「名寄川やサナルダム河川の河川空間をサイクリングや散策等に活用して地域の観光振興等の促進を図るものとして」平成 29 年 1 月に名寄市と下川町から申請いただき、平成 29 年 3 月にかわまちづくり計画として登録されました。昨年度末の時点で、かわまちづくり計画は、全国で約 170 箇所、北海道では、12 箇所がこの支援制度に登録されました。

名寄川地区かわまちづくり計画は、来年度から概ね 5 年程を目処に形にしていける予定です。名寄川地区かわまちづくりが、地域振興につながる取り組みとなるよう、忌憚りの無いご意見を頂けるようよろしくお願いします。

2 設置要領（案）審議

※別紙資料により設置要領（案）を説明し、委員は了承

3 ワーキングメンバー及び事務局自己紹介

4 名寄川地区かわまちづくり計画について

※別紙資料・「名寄川地区かわまちづくり」に向けた取り組みにより説明

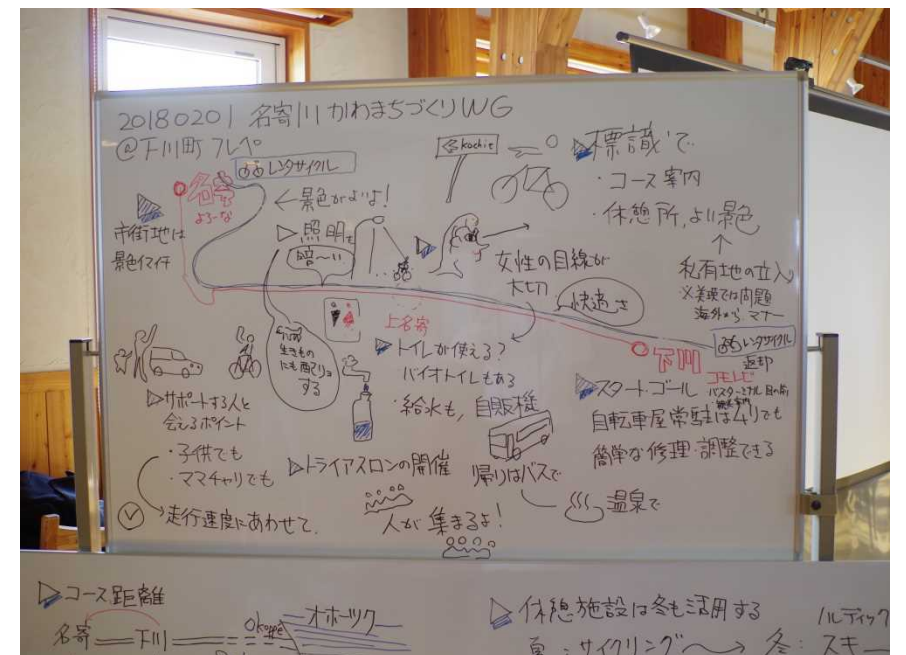
5 効果的な整備、PR 方法及び地域との連携方法について

※ワーキングメンバーによるワーキングテーブルと、事務局オブザーバーによるサテライトテーブルにわかれ、ワークショップ方式により意見交換、次ページに意見の概要を示す

■意見交換の状況



■意見整理のための会場メモ



■参加者集合写真



■意見の概要

検討テーマ				1. サイクリングコースとして必要な整備内容			
				2. 地域との連携方法			
				3. PR 方法			
検討テーマ			項 目	20180201WG 意見（凡例 ●ワーキングメンバー ・オブザーバ）			
1	2	3					
○			ルートの設定	●名寄市側が「よろーな」下川町側が「コモレビ（バスターミナル前）」を拠点とし、この拠点間を結ぶ名寄川や国道ルートを基本ルートとすることで良い。 ●幕別橋の下流右岸に渡り名寄川に沿って行くと紅葉などよい景色がみられる。周辺ルートも検討してはどうか。 ・名寄川の支川を自転車で渡るための施設の整備と、迂回ルートの設定（景勝ポイントを考慮）。 ・バスを活用したルートも検討したい。 ・幕別橋付近の南側の旧国道ルートも検討したい（砂利道かも）。 ・岐阜橋付近は、ピヤシリへのビューポイント。 ・サンルダム周辺は風景がすばらしい。ダム管理事務所で休憩も可能だ。 ・サンルダムの周回ルートは、観光資源としてどう引き込むか検討が必要。			
○	○		拠点の機能	●レンタサイクルを 名寄市「よろーな」 で借りて 下川町「コモレビ」で返却できるなど相互連携できれば良い。 ●往路はサイクリング、温泉に入って、復路はバスで戻るという楽しみ方もある。 ●「よろーな」や「コモレビ」に自転車屋さんの常駐までは無理かもしれないが、簡単な調整・修理はできるような体制があれば良い。 ●夏季はサイクリング拠点、冬季はノルディックスキーの拠点としたら年間を通して活用できる。			
○	○		休憩施設の配置と機能	●上名寄など休憩所にトイレがほしい。 ●維持管理を考慮しバイオトイレを設置する方法もある。 ●給水できる設備もほしい。 ●施設の快適さには女性の視点が大切だ。 ●サイクリングコースの途中で自動車に乗ってサポートする人と会えるポイント（駐車可能箇所）があるとよい。子供でもサイクリングしやすくなる。 ・水辺に近づけるような整備を検討してはどうか（幕別橋上流付近は適地）。 ・サイクリスト歓迎の意をしめすサイクルステーションを設置。 ・トイレ情報を提供する。 ・上名寄バス停のトイレや下川町農業研修道場のトイレを活用できるのでは。 ・トイレ・休憩にダム管理事務所も活用できるのでは。			
○	○	○	案内標識など	●ルートを案内する標識の設置。 ●休憩所、景色のよいところを案内する標識の設置。 ●景色のよいところは、私有地への立入りの恐れがあるので注意が必要。 ●通学利用者の場合、暗くなってからの利用が考えられ危険。生き物への影響配慮も必要となるが、照明の設置を検討できないか。			
	○	○	自転車と川沿いの資源の コラボレー ション（協働）	●名寄→下川（20 km）は、ファミリー層や初心者向き。上級者が対象になる下川町からオホーツクまでの 80 km足した 100 kmコースを検討したい。 ●ピヤシリに一周 100 kmのコースが設定されているので、このコースとの接続も検討できないか。 ●ダム湖を活用したトライアスロン（水泳、自転車、ランニング）の大会を開催できれば多くの人が集まる。 ・川くだり、つり体験、チャシの遺跡発掘ツアー。 ・サケ、サクラマスの遡上の見学。 ・地元スイーツ店等とのコラボした取り組み ・松浦武四郎の足跡、北風磯吉（大正・昭和期のアイヌ語伝承者）生誕の地 ・下川町スキー場のジャンプ台（オリンピック選手を多数輩出）。 ・北海道立サンピラーパークのひまわり畑（映画のロケ地）。 ・旧名寄本線跡のアピール。			